

2021年6月23日

# 製薬放射線ガイドワーキンググループ 終了報告



製薬放射線コンファレンス  
世話人副代表 久保孝利

# 経緯

- 2001年秋、世話人の角田氏(当時)の提案により、基本実務を収載した基本管理編と、利用研究を含めた応用事例を収載した応用管理編からなる「製薬放射線ガイド」(以下、ガイドと記す)を作成するワーキンググループが発足した。
- その後、2002年、2005年、2006年、2008年、2009年および2010年の総会にて成果を報告した。
- その後、WGメンバーの世話人からの退任などによりWG活動は休止されていた。

# ガイド作成の目的※

- 非密封放射性同位元素を取り扱う施設における放射線管理の標準化  
⇒放射線管理のレベルアップ
- 現場知見・技術知見の共有化  
⇒RIの利用促進
- 放射線取扱主任者、放射線管理責任者および放射線管理担当者が利用する。

※2010年度製薬放射線コンファレンス総会資料より

# WGメンバー

第1期リーダー：角田（山之内製薬）

第2期リーダー：多比良（大鵬薬品工業）

第3期リーダー：森川（参天製薬）

※所属は当時

現メンバー（活動休止中）：

森川、大河原、久保

# 活動終了の理由

- 活動中から以下の問題点の指摘。
  - ・多項目に渡るガイドをタイムリーに作成しまとめることが困難。
  - ・施設ごとに放射線管理ポリシーが異なり、意見の集約が困難。
  - ・放射線管理のトレンド変化により、情報を収集しガイドを作成する頃には情報が陳腐化する可能性。
- 世話人数と活動時間の確保が困難。
- 各社の管理レベル/経験が向上した。
- 関連学会や当局によるガイドの充実。

当報告をもって製薬放射線ガイドWG  
の活動を終了いたします。  
これまでご協力をいただき、誠に有  
り難うございました。

※2010年までの活動成果については、製薬  
放射線コンファレンスの会員専用ページ  
に掲載予定です。